

キャラクター名
星ノ 影信 (ほしの かげのぶ)

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス オルクス	ワークス	UGN支部長B	カヴァー	UGN支部長
オプション		年齢	35	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	自傷	初期侵食率	32 %
出自	安定した家庭	経験	永劫の別れ	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	0	1			1	行動値	6
感覚	1	1	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	5	0	0			5	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志	1		調達	5	
運転:			芸術:			知識:			情報:UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:ウェブ	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
うってつけの戦場【80】	RC	2r				2+3+4=3体対象:C値-1(下限6)、ダイス+6、攻撃力+2/侵蝕値10
うってつけの戦場【100】	RC	2r				2+3+4=3体対象:C値-1(下限6)、ダイス+8、攻撃+4/侵蝕値10
開戦の号令【80未満】	RC	2r				2+4+7=3体対象:ダイス+1、攻撃+7/侵蝕値7
全身全霊全力開放【80】	RC	2r				2+3+4+7=3体対象:C値-1(下限6)、ダイス+7、攻撃+7/侵蝕値12

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:UGN幹部	
コネ:手配師	
コネ:要人への貸し	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
亜純血	P	N		
親友<日向 星矢>:RE	P	N	偏愛	
結子くん:WH	P	N	不安	
書類の山	P	N	嫌気	
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 20 残り財産P: 13

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
妖精の手	3	4	オート	視界	単体	自動		
効果: 判定直後使用。対象のダイス目一つを10に変更。1シナリオにlv*回まで								
要の陣形	3	3	メジャー	-	3体	-		
効果: 対象を3体に変更。1シナリオにlv*回まで								
狂戦士	3	5	メジャー	視界	単体	自動	80↑	
効果: 対象の次のメジャーのC値-1(下限6)、判定ダイス+[Lv*2]								
領域の加護	1	2	メジャー	視界	単体	自動		
効果: 対象の次のメジャーの攻撃力+[Lv*2]								
アクセル	4	1	セットアップ	視界	単体	自動		
効果: ラウンド中行動値+[Lv*2]								
帰還の声	1	6	オート	視界	単体	自動		
効果: 回数制限エフェクト回復。シナリオ1回								
戦乙女の導き	1	2	メジャー	至近	単体	自動		
効果: ダイス+Lv個/攻撃の場合+5								
地獄耳	★		メジャー	至近	自身	自動		
効果: 領域内の物事の情報を把握する								
竹馬の友	★		メジャー			自動		
効果: 僕たち友達だよな?								
猫の道	★		メジャー	至近	自身	自動		
効果: 誰も知らない近道を通ることができる								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「僕は君を信じている。どこまでも」
「子供は欲張りなくらいがちょうどいい。」
コンボ
「うってつけの戦場(ステージライト)」
「開戦の号令(オープニングファイア)」
「勝利宣言(ピクトリーラッシュ)」
<設定>
UGN N市支部長。物腰柔らかい中年男性。
基本的に物事に対して不真面目、怒ることも少ない。
チルドレンやエージェントに対してお菓子を与えたり、いじられて弄ばれているところも目撃されています。
任務中では的確な指示と彼の口癖である「信じている」という言葉はエージェント達にとって多少の落ち着きを与えてくれます。

<背景(ボエム)>
昔、親友と呼べる相手があった。彼とはいつも一緒にいた、彼は俺の守るべき存在だった。
現実とは逆だった。彼が俺の日常を守ってくれていた。
それに気づくことができたのは獣の姿をした彼が俺を化物から庇い、倒れた時だった。

今でも、楽しかった時を夢見る時もある。君を殺したやつに復讐したいとも思う。
ただ俺のこの力はきっと夢を支える力なのだと思う。
だから俺は、夢を見るものに『添えるための掌』になる。